


平成 29 年度 研究サマリー

研究会名称	腎疾患における腎機能低下抑制のための最適制御法検出に関する研究会	
代表者所属	大幸砂田橋クリニック	
代表者氏名	前田憲志	
<p>研究方法・結果</p> <p><目的></p> <p>腎機能低下抑制に有効な「生活習慣に関わる数値指標」や「老年期疾患に関わる数値指標」を含む数多くの指標を検出し、それらをデータベース化し多変量解析を行うとともに、これらの研究成果をもとに腎疾患に関する知識を広く一般市民に啓蒙し、腎保護療法の促進と老年期疾患の改善を図る。</p> <p><方法></p> <p>1. 「生活習慣に関わる数値指標」および「老年期疾患に関わる数値指標」のデータベース構築と多変量解析</p> <p>研究分担者が所属する腎臓内科外来において保冷 24 時間蓄尿検査を実施している患者のうち、同意を得られた患者の臨床データをデータベースに蓄積し、透析導入率、および腎機能低下要因などについて多変量解析を行い、検討する。</p> <p>2. 一般市民を対象とした啓発キャンペーンの開催</p> <p>腎機能低下予防に関する研究、ならびに様々なトピックを一般の方々に啓発するため、年に 1 回「腎不全対策キャンペーン」を開催する。</p> <p><結果></p> <p>1. ステージ 4 の慢性腎不全症例において、尿中リン排泄量が 319mg/L 以上の群 (A 群) と未満の群 (B 群) にわけて透析導入率を比較すると、$P < 0.05$ において A 群が有意に透析導入率が高かった。</p> <p>2. 2017 年 8 月 20 日に開催された第 24 回腎不全対策キャンペーンは東北医科薬科大学医学部リハビリテーション学教授 伊藤修先生、鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療栄養学科 准教授中東真紀先生をお招きし、腎臓リハビリおよび CKD の食事療養についてそれぞれご講演いただいた。その他、CKD 患者 2 名に日頃の生活や食事について気を付けている点などについてお話を伺った。218 名が参加され、質疑応答でも盛んにご質問をいただけるなど、盛会となった。</p>		
<p>研究成果 (論文、学会発表、雑誌掲載等)</p> <p>学会発表 : 2016 年 6 月 18 日 第 59 回日本腎臓学会学術集会</p> <p>「一日尿中リン総排泄量の増加は保存期腎不全症例の透析導入の危険因子になりうる」</p>		